

飛鳥資料館のみどころ（13）

展示品解説 その5 「山田寺の磚仏」

飛鳥資料館南東に位置する山田寺は、7世紀半ばに創建され、その当初の東回廊が倒れたまま出土した遺跡として著名ですが、その発掘調査では、金堂や塔内を飾ったと考えられる磚仏も多く出土しました。

磚仏は型に粘土を押し当てたものを焼き、金・銀泥や金・銀箔、彩色などを施して仕上げた像のこと、山田寺のものには4種類あります。このうち上下三段、左右四列に如来の坐像が並ぶ「十二尊連坐磚仏」が最も多く出土しました。表面は焼けて荒れているものが多いものの、当初は黒漆塗りの上に金箔貼りで、各尊を区画する突線の交点近くには釘穴が穿たれています。一部には壁土が融着していたことから、この磚仏は壁に直接打ち付けられていたのでしょうか。

これらは塔跡から金堂跡の南にかけて出土し、とくに塔跡中央に集中して出土しました。ただし、その出土数からは、塔の初層の内壁全体を埋め尽くすものではなく、一部の壁を飾っていたと考え

られます。「十二尊連坐磚仏」は山田寺以外でも、近くは奈良市の西隆寺や西大寺などからも出土しています。しかし、堂内部を飾ったものではなく、僧侶の念持仏や護符として使用されていたと考えられ、なかには廃絶後の山田寺から持ち去ったものが含まれている可能性もあります。

こうした磚仏には、遺構に基づき推定される建物の規模や様式からは窺い知れない堂内の様子を伝える貴重な品となっています。

（飛鳥資料館 清永 洋平）



十二尊連坐磚仏

記録

埋蔵文化財担当者研修

文化財写真（基礎）課程
平成18年7月10日～26日 11名

文化財写真（応用）課程
平成18年7月26日～8月9日 6名

発掘調査・現場一般公開

平城第404次調査（西大寺旧境内）
平成18年6月30日（金） 600名

飛鳥資料館春期特別展

「キトラ古墳と発掘された壁画たち」
平成18年4月14日～6月25日

飛鳥資料館夏期企画展

「東アジアの十二支像」
平成18年8月1日～9月3日

お知らせ

公開講演会

平成18年10月28日（土）午後1時30分～
於：平城宮跡資料館講堂

「明治・大正・昭和の住まいと文化財」
西田 紀子 都城発掘調査部研究員
「木簡調査の100年 - 全国出土木簡の追跡から」
山本 崇 都城発掘調査部研究員

平城宮跡歴史文化講座（第1回）

（NPO平城宮跡サポートネットワークと共催）

平成18年10月14日（土）午後1時30分～

於：平城宮跡資料館講堂

「平城京の暮らし - 市と交易活動 - 」

館野 和己 奈良女子大学教授

飛鳥資料館秋期特別展

展示 「飛鳥の金工 海獣葡萄鏡の諸相」

平成18年10月14日（土）～11月26日（日）

記念講演会

於：飛鳥資料館講堂

平成18年10月21日（土）

「海獣葡萄鏡について」

杉山 洋 飛鳥資料館学芸室長

平成18年10月28日（土）

「伯牙弾琴鏡 - 唐と日本で好まれた鏡 - 」

植松 勇介 國學院大學日本文化研究所

共同研究員

編集「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2006年9月